

樞密院會議筆記

一 文化的協力ニ關スル日本國獨逸國間協定締結ノ件

昭和十三年十一月二十二日（火曜日）午前十時十二分開議

聖上臨御

出席委員氏名省略

議長（平沼）之ヨリ會議ヲ開ク

文化的協力ニ關スル日本國獨逸國間協定締結ノ件
ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審
査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員（原）今回御諮詢ノ文化的協力ニ關スル日本國
獨逸國間協定締結ノ件ニ付本官等審査委員ヲ命ゼラ
レ本月十六日委員會ヲ開キ當局大臣及關係諸官ノ辯
明ヲ聽キテ之ガ審査ヲ遂ゲタリ

日獨兩國ハ醫學、文學、法例其ノ他各般ノ文化事項
ニ關シ多年相互ニ緊密ナル關係ヲ保持シ來リシガ一
昨年十一月防共協定ノ締結成リ爾後兩國ノ國交更ニ
親善ヲ加フルニ至ルヤ本年九月下旬獨逸國政府ヨリ
日獨兩國間ニ於テ近時歐洲諸國ニ其ノ例少カラザル
文化協定ヲ締結シ以テ兩國間ノ文化關係ヲ正文化シ
益々之ヲ増進セシメ惹テ其ノ友好關係ヲ一層鞏固ナ
ラシメンコトヲ提唱シ來リ帝國政府ハ之ニ應諾シ爾
來雙方當局ニ於テ交渉ヲ重ネ其ノ協議詞ヒ本件協定

ノ成案ヲ見ルニ到リシナリ而シテ帝國政府ニ於テハ
單ニ之ヲ獨逸國ノミニ止メズ今後事情ノ許ス限り他
ノ諸國トモ此ノ種ノ條約ヲ締結シテ文化外交ノ手段
ニ依リ外交ノ一般目的ヲ達成スルニ寄與スルノ意圖
アル旨ヲ當局大臣ハ陳述シタリ

本協定ハ日獨兩國間ニ於ケル文化關係ヲ規律スベキ
基本的條規タルモノニシテ其ノ前文ニ於テ兩國政府
ハ兩國ノ文化關係ハ其ノ各々ノ文化ノ發展タル日本
ノ固有ノ精神及獨逸ノ民族的國民的生活ニ基調ヲ置
クベキモノナルコトヲ確認シ兩國各々ノ文化關係ヲ
深カラシメ且兩國國民ノ相互的智識及理解ヲ増進セ
シメ以テ兩國間ニ現存スル友好及相互的信賴ノ關係
ヲ益々鞏固ナラシメンコトヲ欲スル旨ヲ掲ゲ其ノ本
文第一條ニ於テ日獨兩國ハ相互ニ最モ緊密ナル協力
ヲ以テ其ノ文化關係ヲ堅實ナル基礎ノ上ニ樹立スル
コトニ努力スベク第二條ニ於テ之ガ爲メ兩國ハ學術、
美術、音樂、文學、映畫、無線放送、青少年運動、
運動競技等ノ諸方面ニ於テ其ノ文化關係ヲ組織的ニ
増進スベク第三條ニ於テ之ガ實施ニ必要ナル細目ハ
兩國ノ權限アル官憲間ニ於テ之ヲ協議決定スベキ旨
ヲ定メ第四條ニ於テ本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施
シ兩國ノ一方ハ十二月前ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢棄スル
コトヲ得ル旨ヲ定メタリ

按ズルニ本件ハ日獨兩國間ニ於テ其ノ協力ニ依リ文

ノ威榮ヲ見ルニ到リシナリ而シテ帝國政府ニ於テハ
單ニ之ヲ獨逸國ノミニ止メズ今後事情ノ許ス限リ他
ノ諸國トモ此ノ種ノ條約ヲ締結シテ文化外交ノ手段
ニ依リ外交ノ一般目的ヲ達成スルニ寄與スルノ意圖
アル旨ヲ當局大臣ハ陳述シタリ

本協定ハ日獨兩國間ニ於ケル文化關係ヲ規律スベキ
基本的條規タルモノニシテ其ノ前文ニ於テ兩國政府
ハ兩國ノ文化關係ハ其ノ各々ノ文化ノ發達タル日本
ノ固有ノ精神及獨逸ノ民族的國民的生活ニ基調ヲ置
クベキモノナルコトヲ確認シ兩國各種ノ文化關係ヲ
深カラシメ且兩國國民ノ相互的智識及理解ヲ増進セ
シメ以テ兩國間ニ現存スル友好及相互的信賴ノ關係
ヲ益々鞏固ナラシメシコトヲ欲スル旨ヲ掲ゲ其ノ本
文第一條ニ於テ日獨兩國ハ相互ニ長モ緊密ナル協力
ヲ以テ其ノ文化關係ヲ堅實ナル基礎ノ上ニ樹立スル
コトニ努カスベク第二條ニ於テ之ガ爲メ兩國ハ學術、
美術、音樂、文學、映畫、無線放送、青少年運動、
運動競技等ノ諸方面ニ於テ其ノ文化關係ヲ組織的ニ
増進スベク第三條ニ於テ之ガ實施ニ必要ナル細目ハ
兩國ノ權限アル官憲間ニ於テ之ヲ協議決定スベキ旨
ヲ定メ第四條ニ於テ本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施
シ兩國ノ一方ハ十二月前ノ報告ヲ以テ之ヲ廢棄スル
コトヲ得ル旨ヲ定メタリ

按ズルニ本件ハ日獨兩國間ニ於テ其ノ協力ニ依リ文

化關係ヲ益々發展セシメ延テ友好關係ヲ益々敦厚ナ
ラシムル爲メ一協定ヲ締結セントスルモノニシテ此
ノ協定ハ兩國ノ文化ノ向上ニ貢獻スルト共ニ其ノ國
交ノ親善ニ裨補スル所尠カラザルベキガ故ニ其ノ趣
旨ニ於テ之ヲ妥當トスベク其ノ條項ニ付テモ亦別ニ
支障ノ虞ヲ認メズ仍テ審查委員會ニ於テハ本件ハ此
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決
シタリ

右審查ノ結果ヲ報告ス

二十八番（石炭） 本協定ノ基調ヲ爲スト認メラルル前
文ニ於テ日獨兩國文化ノ眞實ヲ一方ハ日本ノ固有ノ
精神トシ他方ハ獨逸ノ民族的及國民的生活ト爲セリ
兩者ノ對照ニ適當ヲ缺クモノアリト愚料スルモ特ニ
之ヲ審キ分ケタル理由ヲ承リタシ次ニ獨逸ノ民族的
及國民的生活トハ如何ナル内容ヲ有スルモノナルカ
就近世ニ宣傳セラルル獨逸或ハナチス民族主義ニ依
レバ獨逸民族ハ他國ニ居住スル者ト雖之ヲ統一糾合
シ或種ノ他民族ハ同國內ニ居住スル者ト雖之ヲ排斥
セントス然ルニ我國固有ノ精神ハ民族ノ如何ヲ問ハ
ズ一視同仁等シク之ヲ德化スルニ在リ彼此懸隔スル
コト例ヘバ斯ノ如シ本協定ハ直接政治ニ關スルモノ
ニハ非ザルモ惹イテ政治的影響ヲ齎スニ至ルベシ仍
テ國民ヲシテ其ノ嚮フ所ヲ認ラシメザル様豫メ特別
ノ配慮ヲ要スト考フルモ此ノ點ニ關シ政府ノ御所見

化關係ヲ愈々發展セシメ延テ友好關係ヲ益々敦厚ナ
ラシムル爲メ一協定ヲ締結セントスルモノニシテ此
ノ協定ハ兩國ノ文化ノ向上ニ貢獻スルト共ニ其ノ國
交ノ親善ニ裨補スル所尠カラザルベキガ故ニ其ノ趣
旨ニ於テ之ヲ妥當トスベク其ノ條項ニ付テモ亦別ニ
支障ノ虞ヲ認メズ仍テ審查委員會ニ於テハ本件ハ此
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決
シタリ

右審查ノ結果ヲ報告ス

二十八番（石炭） 本協定ノ基調ヲ爲スト認メラルル前
文ニ於テ日獨兩國文化ノ眞實ヲ一方ハ日本ノ固有ノ
精神トシ他方ハ獨逸ノ民族的及國民的生活ト爲セリ
兩者ノ對照ニ適當ヲ缺クモノアリト思料スルモ特ニ
之ヲ審キ分ケタル理由ヲ承リタシ次ニ獨逸ノ民族的
及國民的生活トハ如何ナル内容ヲ有スルモノナルカ
晚近世ニ宣傳セラルル獨逸或ハナチス民族主義ニ依
レバ獨逸民族ハ他國ニ居住スル者ト雖之ヲ統一糾合
シ或他ノ他民族ハ同國內ニ居住スル者ト雖之ヲ排斥
セントス然ルニ我國固有ノ精神ハ民族ノ如何ヲ問ハ
ズ一視同仁等シク之ヲ德化スルニ在リ彼此懸隔スル
コト例ヘバ斯ノ如シ本協定ハ直接政治ニ關スルモノ
ニハ非ザルモ惹イテ政治的影響ヲ齎スニ至ルベシ仍
テ國民ヲシテ其ノ嚮フ所ヲ謬ラシメザル機微メ特別
ノ配慮ヲ要スト考フルモ此ノ點ニ關シ政府ノ御所見

ヲ伺ヒタシ

十七番 (有田) 獨逸ノ民族的及國民的生活トハ畢竟獨逸ノ固有ノ精神ト云フニ外ナラザルナリ之ヲ用ヒタル所以ハ本協定ノ協議ニ當リ獨逸國側ヨリ強ク此ノ用語ヲ主張シ獨逸ノ固有ノ精神ハ其ノ民族的及國民的生活ニ具現セラレツツアルヲ以テ茲ニ其ノ文化ノ眞實ヲ置キタキ旨ノ申出アリタルニ因ルモノナリ次ニ本協定ハ兩國文化ノ連絡及其ノ組織的向上ヲ圖ラントシ日獨兩國ノ文化關係ハ各々ノ固有ノ精神ガ其ノ基調タルコトヲ認メタルモノニシテ政治上ニ影響ヲ及ボスモノアリトハ思料セザルモ萬一實施ニ當リ御所見ノ如キ懸念アリトセバ充分ノ注意ヲ拂ヒタシ

二十八番 (石塚) 大體ニ付諒承セルモ本協定實施ノ長キ期間ニハ政治的影響ヲ齎スベキコト想像シ得ラルル所ナリ殊ニ最近我國ニ於テハ動モスレバ獨逸國ノ風潮ニ心酔セントスルノ傾向無シトセザルニ鑑ミ本官ハ重ネテ本協定締結ニ當リ國民ニ其ノ嚮フ所ヲ諷ラシメザル様何等カノ方法ヲ講ゼラレシコトヲ希望ス

議長 (平沼) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省略

シテ直ニ採決スベシ本採賛成ノ各位ノ起立ヲ請フ

(全員起立)

議長 (平沼) 全會一致可決セラレタリ

DOC 956

本日ハ之ニテ開會ス
皇上入御

(午前十時二十六分開會)

議長男爵	平	沼	廣一郎
書記官長	村	上	恭一
書記官	堀	江	孝雄
	高辻	正	己雄

DOC 956

本日ハ之ニテ開會ス
聖上入御

(午前十時二十六分開會)

議長男爵	平	沼	摩一郎
書記官長	村	上	恭一
書記官	堀	江	孝雄
	高	辻	正己

文化的協力ニ關スル日本國獨逸國間協定

大日本帝國政府及

獨逸國政府ハ

日本文化及獨逸文化ガ一方ハ日本ノ固有ノ精神ヲ、他
方ハ獨逸ノ民族的及國民的生活ヲ其ノ眞實トスルニ鑑
ミ日本國及獨逸國ノ文化關係ハ茲ニ其ノ基調ヲ置クベ
キモノナルコトヲ嚴肅ニ認メ

兩國ノ各種ノ文化關係ヲ深カラシメ且兩國國民ノ相互
的智識及理解ヲ増進セシメ以テ既ニ幸ニ兩國ヲ結合ス
ル友好及相互の信頼ノ關係ヲ益鞏固ナラシメシコトヲ
欲シ

左ノ通協定セリ

第一條

締約國ハ其ノ文化關係ヲ堅實ナル基礎ノ上ニ樹立スル
爲努力スベク相互ニ右ニ付最モ緊密ナル協力ヲ爲スベ
シ

第二條

締約國ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲學術、美術、音樂、
文學、映畫、無線放送、青少年運動、運動競技等ノ方
面ニ於テ兩國ノ文化關係ヲ組織的ニ増進スベシ

第三條

前條ノ規定ノ實施ニ必要ナル細目ハ締約國ノ權限アル
官憲間ニ於テ協議決定セラルベシ

第四條

本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施スベク締約國ノ一方ハ
十二月ノ豫告ヲ以テ本協定ヲ廢棄スルコトヲ得

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ
本協定ニ署名調印セリ

昭和十三年十一月 日即チ千九百三十八年十一月

日東京ニ於テ日本語及獨逸語ヲ以テ本誓二通ヲ作
成ス

大日本帝國外務大臣

獨逸國特命全權大使